

海女の道具

海女漁にはなくてはならない道具たち。時代の移ろいの中で、素材は変わりましたが、形や大きさには昔の姿をとどめており、長い間に培われた知恵が詰まったものばかりです。



2 眼メガネ
両目それぞれに別れた2眼メガネです。

アワビオコシ

歯の部分は鉄、柄は木ですが、海女は柄の部分に魔よけのマークを彫ったりしています。



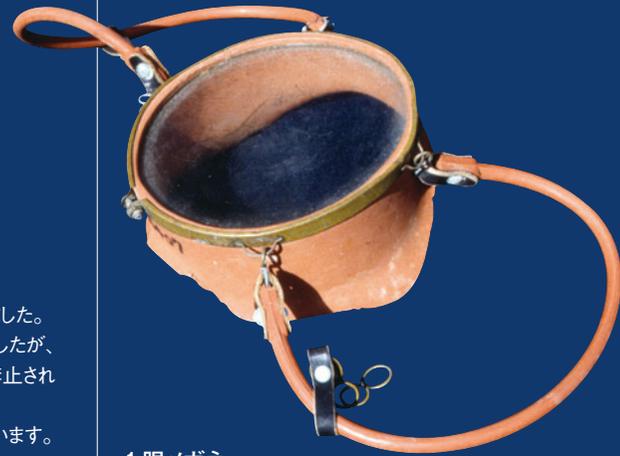
カギノミ

木の柄がなく、一方がカギ状に曲がっていてサザエやウニをとったり、岩にひっかけて体を安定させたりするのに便利です。



磯メガネ

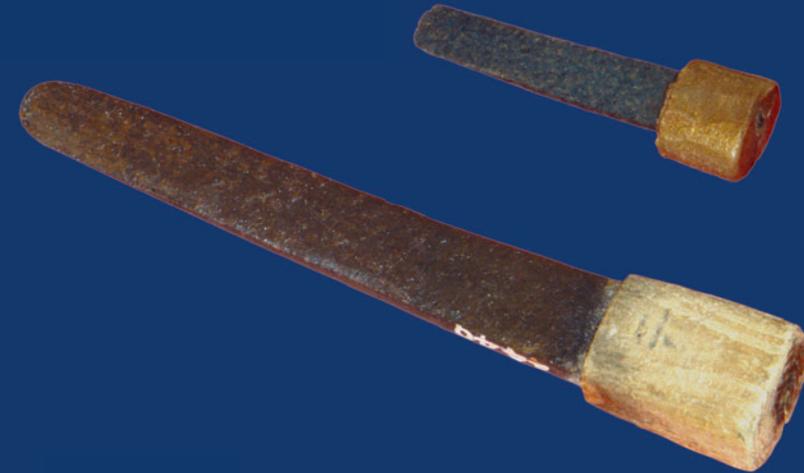
海女にとって、ガラスのメガネは漁に革命をもたらしました。三重県では、明治10(1878)年すぎに使われはじめましたが、アワビなどがとれ過ぎるため、以降20年ほど使用が禁止されたところが多くありました。下の磯メガネは右から左へ、発展の順に並べられています。右から3つ目の「ヒツメメガネ」は鼻がメガネの外にでている初期の1眼メガネで、目にかかる水圧を逃すため、空気抜きがゴム袋がついています。



1 眼メガネ
現在使われている目と鼻を入れるメガネです。

磯ノミ

磯ノミはアワビを岩から外すのに無くてはならない道具です。アワビのいる場所に応じて大小を使い分けます。(上:小ノミ、下:大ノミ)



スンボウ [寸棒]

スンボウともいいますが、切れ込んだ部分は10.6センチあり、この部分にはまってしまうアワビはとることが三重県では禁じられています。



ヒカリ [光り]

アワビがいるのに、もう息がつかない時など、この貝殻を目印に残してきます。